

製品名: IP3KA ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12698**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	ITPKA
別名	ITPKA; Inositol-trisphosphate 3-kinase A; Inositol 1; 4,5-trisphosphate 3-kinase A; IP3 3-kinase A; IP3K A; InsP 3-kinase A
遺伝子 ID	3706.0
SwissProt ID	P23677
免疫原	抗血清はヒト IP3KA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 396-445

背景

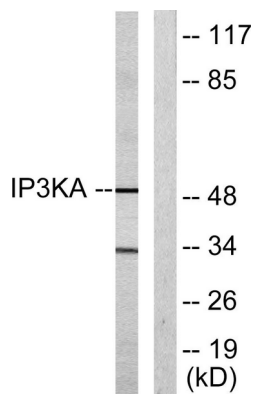
セカンドメッセンジャーであるイノシトール 1,4,5-トリスリン酸を Ins(1,3,4,5)P4 にリン酸化することにより、イノシトールリン酸代

謝を制御します。イノシトール 1,4,5-トリスリン酸 3-キナーゼの活性は、細胞シグナル伝達に重要な多数のイノシトールポリリン酸のレベルを調節する役割を担っています。カルシウム/カルモジュリンとタンパク質リン酸化の両方のメカニズムによって、その活性が制御されています。また、in vitro において、環状 AMP 依存性タンパク質キナーゼ、カルシウム/カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼ II、およびタンパク質キナーゼ C の基質でもある。[RefSeq 提供、2011 年 4 月],触媒活性:ATP + 1D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 = ADP + 1D-ミオイノシトール 1,3,4,5-テトラキスリン酸。酵素調節:IP3K はカルモジュリンによって活性化される。、類似性:イノシトールホスホキナーゼ (IPK) ファミリーに属する。、

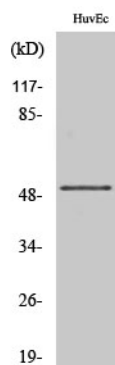
研究分野

イノシトールリン酸代謝;カルシウム;ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系;

画像データ



IP3KA 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



IP3KA ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析